

第2回岡遺跡調査委員会議事録

令和7年3月5日(水) 10:00～

栗東市役所2階第5会議室

委員 増渕 徹 和歌山県立紀伊風土記の丘館長(委員長)
小澤 毅 三重大学特任教授(副委員長)
佐藤亜聖 滋賀県立大学教授
箱崎和久 独立行政法人奈良文化財研究所部長(欠席)

オブザーバー 長 直信 文化庁調査官(欠席)
細川修平 滋賀県文化財保護課(欠席)
園田万佑香 滋賀県文化財保護課
佐伯英樹 栗東市スポーツ協会文化財調査課

事務局 太田部長 赤井課長 雨森係長 藤岡 松村

【委員長挨拶】

前回、過去に調査された部分の、再検討しようということで、問題とか宿題が出されていたかと思えます。そのあたりが反映されているかどうか、伺いながら、進めていきたい。

【会議の公開】

事務局) 栗東市附属機関等の会議の公開に関する要領に基づき、委員会の委員会を公開することになっています。この要領は、栗東市情報公開条例の規定の趣旨にのっとり、市政の見える化の推進と公正性の確保を図るためのものです。本日は、傍聴、傍聴者についてはございません。

【委員・オブザーバー・事務局紹介】

委員長) 次第に基づきまして、議事に入らせていただきます。4点ございますけれどもまず、第1点、岡遺跡の既往調査の整理について、事務局の方からご説明ください。

《(1) 岡遺跡既存調査の整理について》

事務局) 前回からの委員会からの進捗を報告。

- ・栗太郡の読み方について、今後説明や報告書刊行時にはご指摘のように(くりた・くるもと)、対応していきたい。
- ・瓦は破片が多い。出土地点は報告書や今回の資料に記載した。次年度は岡遺跡中心部分の遺物を再検討していく予定なので、瓦の詳細についても、詳細に見ていく予定。
- ・岡遺跡Ⅱ期に出現するとされている長舎によるL字型の構成の類例がなく、そこを精査していく必要があるのではないかとご意見を複数いただいている。時期設定については表採の遺物や、切り合いの状況で判断しているところがあるので、今後報告していく中ではこれを課題として明記していく、もしくは、再調査をするという場合になりましたら調査区域の候補地としていく。
- ・柱の重複関係が多数ある部分についても、今後中心部分の調査成果の整理をする中で、写真をもう一度検討していきたい。本来でいくと再調査が望ましいが、可能であれば調査区域の設定等検討していく。
- ・今年度の調査では、岡遺跡の西側、第5、6次調査地を中心的に整理した。その中で、評段階(7世

紀後半)の遺物が多く含まれることを確認している。

・外郭の施設に、二重の溝に囲まれているとことについて、半町ブロックをさらに二重の溝で区画する例はないと思われる。周辺部分の調査も含めての検討になるかとは思いますが、微地形の問題もあるのかとは考えている。ご指摘ではコンターを入れていくということだったのですが、現段階では遺跡の把握をする上で、旧の地図に乗せた図を提示している。

・郡衙どのように終わっていくかというご指摘があり、土器の編年も含めた図を記載した。

・栗太郡全体の律令期の遺跡の広がりが見える資料があった方がいいという指摘により、今回添付した。

・再調査ができるかどうかということについて、地域や地権者の方と協議し、文化庁や県と相談しながら、今後、委員会に諮っていきたい。とくにA区の正殿も、切り合いが非常に多くあり不明な点が多く、再調査できる場合は調査区域の候補地とすることを考えている。

・岡遺跡の史跡指定にしていく背景について、市内の状況について、関係各課であるとか、市の全体会議、自治会長等に聞きながら現状把握に努めている。現状では開発の危機が迫っているというわけではないが、市役所から岡遺跡にぬけていく道が3月15日に開通することになっており、今後、地域の状況が変わっていく可能性が考えられる。

・地域との関係では、3月12日には、3自治会の自治会長合同で協議する。地域の盛り上げという点では、地元の有志の方が、岡遺跡を発信していこうとする団体の方を設立されており、連携を図っていければと考えている。市教委では来年度から本格的に、岡遺跡に関連する連続講座を開催する予定になっており、今年度はそのプレ講座として、3月20日にこの地域の古墳群や豪族の状況をご講演いただく予定。

・現時点でできることと、長期で行うことの整理をしたほうがいいというご指摘があった。現在できることについては、遺跡周辺部分の調査の整理、それから次年度に行う中心部分の再整理。さらに、栗太郡全体や各地の類例を加味した検討を引き続き行っていききたい。長期で行うことについては再発掘調査の検討と活用の検討になるかと思う。

委員長) 前のご指摘について対応をしていただいた。このことについて意見ををお願いします。

委員) 栗太郡について、「くりもと」ではなく、和名抄の読み方により「くるもと」の方が良いと思う。

委員) 「もしも再調査ができれば」という話をされていたが、前回の委員会の意見としては、正殿と門との取りつきの部分は再発掘がどうしても必要であろうという事だったかと思う。今日的な調査の評価としては、ここの知見をもう1回確認しないことには、史跡としては無理だと思う。これは当然もやらなければならない、不可欠な調査だと考えている。これは委員長や、他の方も同様な意見だったと思う。

委員) 地図に関して、国土地理院の2500分の1の地図など、詳細な図面がないか、或いはこれを補うような航空写真の活用も考えていただいたほうが良い。

委員) 既存の調査という言い方は違和感があるので、過去の調査内容、もしくは既往の調査といった方が良い。

委員) 正殿やⅡ期の長舎の問題がある。史跡指定しようと思うと本質的価値が一番問われるところになってくる。そうすると、この本質的価値に関わる部分に関しては、きちんと位置付けをしないとおそらく史跡にできないというのが当然のことである。その中でこの建物というのが、おそらく遺跡自体の本質

的価値に係る部分なので、その評価を長期的な展望の方にまわしてしまうのはどうか。おそらく再調査をしないと答えは出ないのでは。切り合いだとか、遺物が、柱ものどこから出たかっていう議論は、おそらく再整理ではなかなか難しいのではないかと。全面を掘るという事はないが、柱穴のごく少数でも構わないので、本質的価値の証拠をしっかりと提示しないとなかなか難しいのではないかと。再調査が難しいというのはよくわかるし、予算措置的な問題でも難しいと思うが、再調査を実施する上での課題はあるか。

→事務局) 地権者さんとの協議が必要であるのはもちろんであるが、あとはすべて予算と体制、ということになる。

委員) 再調査の場合は単費ですか。

→事務局) 国庫補助の保存目的調査で行いたい。

委員) できれば本質的価値に関わる部分だけは、前向きにお願いしたい。

委員長) 前回、現場を見ながら、再調査が必要となる部分を検討してご意見をいただいた。ここ10年程の官衙遺跡の指定を見ていくと、基本的にいわゆる評の段階まで遡るといのがかなり増えている。岡遺跡の場合、多分時期的にこれが検出されるのが早かった。正道官衙遺跡(京都府)のときも、7世紀の第三4四半期にさかのぼるものをどう評価するか、或いは本当にその時期でいいのかと問題になった。今、全国的に郡衙遺跡が確認されている中で、7世紀第4四半期あたりには、岡遺跡で第Ⅱ期と判断されている長舎形式のものが出てきている。上野国新田郡家(茨城県)でもでてきている。そうすると、岡遺跡はそもそもいつから官衙遺跡として始まってどんな変遷をたどるのかということが、改めてすごく大事な部分になる。その時に、長舎に四面を囲まれる時期がいつなのか。或いは、L字から、ロの字型になっていくというのは、評から郡に変わる時期かもしれないが、そういう時期の設定をどうするか。それによって岡遺跡の時期変遷と構造がどう変わっていくのか。それが国家の体制の転換とどうリンクするのかということを改めて、きちっと位置付けた方がいいのではという意見だと思う。改めて、国家史の中できちんと位置付けられる遺跡として評価できますということで、極めてスタンダードな形で史跡指定に持っていき、位置付けてもらえるだろうというご判断だと思う。その中で最初にあった、中央の正殿的建物が、最初から廂を持つてたのかそうでないのか。或いは門がどの方向を向いているのか、という構造上大きな問題であり、そこは触れておいて、同時に時期変遷もきちっと区分することが必要である。前回調査会議終わってから、追加調査が必要とところ、調査しないで以前の調査成果というものを評価して整理すればいいだろうというところを仕分けしなさいということリンクするのだと思う。それでいくと、市内遺跡などで調査費を補助してもらって、岡遺跡については必要な部分の調査を、県の指導も受けながらやるというふうにすると、効率的かつ比較的順調にいけるかなと思う。

事務局) 引き続き説明します。

- ・今年度調査は地山古墳東側の調査地(5次、6次)の再整理を行った。
- ・地山4号墳の周濠から7~8世紀の大量の須恵器が出土。岡遺跡Ⅱ期~Ⅲ期の時期に大体おさまる。ほかに土馬や中空円面硯、鉄滓とかファイゴ羽口なども、複数出ている。
- ・2間×2間などの、比較的大きな総柱建物の建物のほか、10世紀以降ぐらいの建物が、複数建っていく状況がうかがえた。
- ・南側のトレンチ(T-2)でも小規模な建物がいくつか建っております。そこでの時期が大体10世紀

ぐらいが主になってくる。この調査区では、7、8世紀ぐらいの遺構はあまりなかった。

・5次、6次調査の東側道路部分については県の調査であり、その整合性はもう少し検討の余地がある。

・その他の調査事例として、名神高速道路の東側一帯で小規模な調査が行われている。名神高速道路の横では県で、高速道路拡幅に伴う調査をされており2条の溝が出ている。東側の溝がちょっと古く、若干時期差がある。その東側、2000年度第1次調査では、溝がさらに東側に広がっていて、それが官衙域の東側が広がったと報告していた。この2000年の調査の溝からは10世紀～12世紀ぐらいまでの遺物が出ていた。この東側の区域はその時期のものが多いのかと思われます。2002年1次調査、2013年も同様の溝が出るので、むしろ官衙が終わった段階で、溝に囲まれたような集落があった可能性がある。唯一2003年度調査というところで、奈良時代の大型の建物が見つかっており、帯金具が発見されている。

・岡遺跡の時期区分と土器を掲載した。西側の地山4号墳土器群の時期を、および東側地区の中心の時期を入れている。新しい時期については、回転台土師器が出てくる時期ぐらいからの時期区分になる可能性があり、IV期の時期設定というのも今後見直していく必要がある。

・IV期の初めがどうなるかという問題がある。回字型の区画が大体そのときの時期になくなっていくという点で、III期の時期も見なおしていく必要がある。それとともに、手原遺跡が出現するのが8世紀中ごろになるので、そういったこととどう関係していくかよく整理する必要があると思われる。

・中心地域の特殊物の分布の方を参考までに掲載した。

・IV期というのは遺物が比較的少ない傾向があり、V期になると再び増加することから、ここに画期がみとめられる。

委員) ロクロ土師器を祭祀に位置付ける理由があるのか。

→事務局) 皇朝十二銭など伴って出ていたり、ピットの中に複数のお皿が入っているというところから、祭祀というふうに報告している。

委員) 10世紀の前半が少ないようにこの図面では見受けられる。東の区画は新しいものが多いが、溝で囲まれてるっていう理解でいいか。

事務局) 囲まれている可能性がある。

委員) 2000年の調査で二重の大きな溝が見つまっているが、年代はどこまでしぼれるか。

→事務局) 二重の溝にはなるが時期が違い、西側の方については、古いもので郡衙に関連するものだと思うが、東側については、性格が変わると考えられる。

委員) 西側の溝は古代に遡るのか。

→事務局) 県の方の調査は、片方の溝が、7～8世紀。岡のII期。東側の方がIII期IV期ぐらいというふうに報告書には書かれている。

委員) その隣の2000年の1次調査、暫定10次の溝は全然時期が違うということか。

→事務局) 概ね10世紀頃かなと思うが黒色土器も含まれるので12世紀ぐらいまで行く可能性ある。時期幅が広すぎるので、もう少し検討が必要。

委員長) 2000年度調査の西側の溝が郡衙の東を区画するものである根拠は明確か。

→事務局) 郡衙の時期の遺物が出ているということだけである。それから繋がっていく県の調査のところで同様の時期になっている。

委員) 方位も違う気がする。これが東側の溝ということであれば、高速を挟んで西側の調査でもその続き伸びてくるはず。それらしい溝があるかどうか。

委員) 東側はむしろ地割と合致しているので、地割に伴うものではないか。

委員) 2000 年度調査の、東を区画すると書かれている溝が、郡衙を区画する溝であることについて、これだけの情報で決めつけられない方が良くはないか。私も地割に沿った溝であると思う。

委員) 暫定 6 次調査で、古墳の溝からいろんな遺物がでていますが、そこは廃棄するために、利用したってそういった理解でいいか。

→事務局) 廃棄するためという理解もあるが土馬なども出ているので、お祭りとかもしてたかなと思う。

委員) 土馬は他からは出ていないのか。

→事務局) 岡遺跡ではここだけである。

《(2) 岡遺跡周辺遺跡の状況について》

事務局)

・手原遺跡は、古くから古代寺院と言われていたところであるが、J R 手原駅北側辺り一帯で大型の建物が見つかったことをきっかけに、官衙の関連遺構がこちらに機能移転するとか、もしくは広がりが見られるのではないかとされている。一番大きな建物が、廂付の、6 間以上の建物で前殿的なものもある。それに加えて、手原遺跡の東側の一番南のところでは、流路が発見され木簡の削り屑を含む 200 点以上、転用硯などが多数見つかっている。その北側のところでも非常に多くの建物が見つかっていて、この東側一帯に役所的な機能があったのは確実であろう。寺院推定地の西側でも、比較的規模は小さいが倉庫群が集中する。さらにその北側にも、南北棟の建物が集中するなど、非常に大きな広がりが見られる。さらには北西側の、下鉤東遺跡でも、川原寺式の瓦が多く集中するところがあり、短期間ではあるがここにも寺院があった。さらに北側では蜂屋廃寺があり法隆寺式の瓦が発見されている。

・十里遺跡では、遺構の広がりとかは確認できていないが部分的に調査したところでは 1 間×1 間に廂がつくのか 2 間×3 間で束柱になるのかという建物が 2 棟出ており、川の跡から木簡が 3 点出ている。1 号木簡は、乙酉年すなわち 685 年の年号が書かれていた。岡遺跡の古墳の周濠にたくさん捨てられていたのはこれよりももう少しさかのぼる時期からのものが出ていますので、十里遺跡に古い官衙遺構があって岡遺跡に移るといっても同時並行的に両方にあったのではなかろうかというような関係になるかと思う。

・狐塚遺跡は岡遺跡と手原遺跡のちょうど間あたりで、7 世紀末～8 世紀初めの土器が出ており、墨書土器も出ている。「大殿」とか氷室とか書かれてるものも出ており、岡遺跡の関連の官人の集落であった可能性はあるかと考えられる遺跡である。

・大將軍遺跡(草津市)は、岡遺跡の南側に位置し、8 世紀後半から 10 世紀にかけての遺構が検出されている。ここでは中心部分で多くの倉庫群が見つかっていて、その周りで墨書土器が非常に多く見つかっていると。特に西側の地域では「高野」と書かれたものであるとか、「郷長」と書かれたものなどが集中している。東側では、「稻万呂」などの人名を書かれた墨書土器が多く見つかっている。岡遺跡同様、ある程度地区分けをされて、設置されてるような建物部分であった可能性が非常に高い。

・榊差・黒土遺跡(草津市)は、瀬田丘陵の生産遺跡群の北側に接する丘陵端部のところにある遺跡である。岡遺跡を超えるような、非常に大きな、長舎建物が 1 棟見つかっている。それとともにもうちょ

っと近くには若干小ぶりな建物も見つかる場所があり7世紀後半から8世紀前半の集中地区というところとなっている。あわせて鑄造遺構が見つかったので、関連する可能性がある。

・近江国庁は岡遺跡の、Ⅲ期の時期が終わってⅣ期になろうかとする頃に特徴が整備されているというような状況である。もう少しこれは整理したい。

・瀬田丘陵の生産遺跡群として製鉄関連遺跡の広がりも、律令期栗太郡の非常に大きな特色である。

・岡遺跡の、山手の方では須恵器の窯が広がっている。近江大津宮の時期から9世紀にかけて、連綿と窯が形成されているという状況がある。

委員) 十里遺跡の建物は、柱の深さ側柱とどのような違いがあるのか。そこを確かめられるような図面、そのあたりのデータを整理しておいてください。大きな縮尺の図面を呈示してほしい。

委員) 榊差遺跡の長大な長舎に関しては、これ一棟で成立はおそらくないだろうと感じる。トレンチが入っている部分が限られるので、トレンチが開いてないところに(建物が)存在した可能性もやはり考えていく必要があるのではないかな。

委員長) 手原遺跡の木簡は今、どういう風に整理されているか。

→事務局) 保存処理を行いまして、見られるようになっていきます。削りくずについても順次、保存処理をしている。

委員) 十里遺跡の木簡は何年か。

→事務局) 685年。

委員) 手原遺跡の図を見ているとよくわかるが、溝により区画を形成している。岡遺跡の溝による区画も問題視していたが、こういうものも、もう少し意識して再整理のデータを見ていければいいかと思う。

→事務局) 次回までに綺麗な図を載せたい。

委員) 岡遺跡も含めて、炭化米が出土する事例はないか。

→スポーツ協会) 手原遺跡では、溝から粃殻が多量に出ている。

委員) 郡衙遺跡の倉庫群は、かなり稲束を集積しているので、そのあたり少し、気になる。

→スポーツ協会) 粃殻は手原遺跡の溝から、製塩土器などとともに、土器に詰まって出てきた。そこで精米していたのでは。

委員) 手原遺跡が機能していた時期は、岡遺跡の政庁の区画が明確な形をとらなくなり、消滅する時期、8世紀後半頃か。

→事務局) 8世紀中ぐらいから手原遺跡が出てくる。従来からの岡遺跡の編年に当てはめると、大体Ⅳ期と言われる時期ぐらいから手原遺跡が整った形を見せてくるのではないかと思う。

委員) 岡遺跡のⅣ期は、閉塞した構造は持たないけれども、企画性の高い建物は残るのか。

→事務局) 当時の見解としてはそのように復元されている。ただ倉庫群と複雑に切りあっているので難しい面がある。

委員) その辺、慎重に判断していく必要がある。

委員) 郡家の中枢部分がどう移行したかというだけではなくて、それ以外の大將軍遺跡など、郡家を構成する関連施設が複数見ついている。それぞれどんな性格を持っていて、どの時期に機能しているのか、岡遺跡を中心とした栗太郡全体を見る中で、ある時代のストーリー性、地域のイメージを描くことができる材料になると思う。報告書に触れられてる中身でいくと、Ⅳ期なんかも、閉塞はされてないけれど

も、もしこの建物の構造評価でいいとすれば、かなりしっかりしたものである。今度は手原遺跡の方がどこまでしっかりしたものであったかという問題があるが、これは郡家中枢部分の移転と考えるのか、或いは同時並行であれば、手原のほうの性格をどう見るかということに関係してくるのかなと思う。

→事務局) このIV期の時期の年代決定は、それがIII期の、西側の長舎を切っている溝の年代によって考えられている。

委員) 岡遺跡IV期のS B 39、SB51は南北に並ぶ。それで、SB39は5間で三面廂である。SB39の復元は本当にこれでいいのかということがあると思うが。手原遺跡は7間だが片廂で前殿をとまなう。そうみると中心建物が岡から移ったというのはやはり検討する余地があると思う。

→事務局) 岡遺跡の土器の集中、分布で、少ない時期と言っているが、土器が集まっているところを掘れていないというのが実際のところ。まだまだ検討の余地はあるかと思う。

委員長) 周辺遺跡についていかがでしょうか。榊差遺跡のこれ以降の調査の状況は。

→事務局) 大規模な宅地開発がされており、もう少し成果が増えていると思われる。追加の宅地造成に伴うものは草津市が実施している。これも県の調査の部分だけで草津市も実は宅地造成のその道路部分を実施しており、調査はどんどん進んでいる。草津とも連携をとりながら、検証していきたい。

委員長) 大將軍遺跡は、たしか「高野郷長」の墨書土器がでてきたから高野郷だといっていたが、高野郷のなかで郷長が使う土器に「高野郷」とは書かない。高野郷長が郡の雑任で、ここは栗太郡の倉庫群の一つかなと思う。中心的な部分、「高野郷長」が出てきたところは郡家を構成する1区画、1つの場所と見たほうがいいじゃないのかと思っている。

→事務局) 栗東にいるものとしては栗東市の高野というところから、来ている可能性がある。

委員長) そうしたらもう、3番目、今後の調査の進め方、方法を伺った上で、改めて、このデータ整理の内容、についてもご意見を聞いたらということにしたい。今後の調査の進め方についてご説明をお願いします。

《(3) 今後の調査の進め方について》

事務局)

- ・事業の概要につきましては前回と同じような内容。あくまでも今回の保存目的調査は史跡に指定するために総括する。そこに今回、必要に応じて発掘調査を実施した上でと文言を入れた。そこで本質的価値を検討し、総合調査報告書を作成すと記載している。工程については、発掘調査を入れると4ヵ年計画になるとスケジュールを書いている。令和7年度から地元との調整を踏まえ、地権者と相談し、さらに予算を獲得することにより令和8年度に再発掘調査というようなスケジュール設定である。それを含めて、6～8年度を通じてこれまでの調査期間を、調査の整理も含めて、9年度に報告書を作成できればと考えている。その間委員会としては2回づつ持ちたい。調査をするときになったらもっと頻繁に、開催することになるかと思う。

- ・庁舎内については総合調整会議があり、すでに3回報告している。次回につきましては地権者、地元への説明をどのようにするのかということ報告する。それに伴い関係各課との協議を進めている。

- ・地域については(3月)12日に合同の協議をする予定となっている。それを踏まえて地権者の説明、地元の説明を予定している。

- ・次年度の進め方については、この委員会でのご指導のもとに、昭和61年からの1～3次調査の資料

を今日的な観点で整理した上で、発掘調査の検討をしていき、最終的には史跡指定を目指す。

・岡遺跡連続講座を次年度から実施していく。ついでには地元のコミュニティセンターなどで、実施できればと考えているが、前段階として、プレ講座を3月20日に「栗太の豪族と渡来人」ということで開催して、郡衙造営の背景を考えていこうということを予定している。今現在70名のところほぼ満席状態の申し込みがある。

・最後、保護すべき範囲の案をお示ししているものは、前の通り。

・今後、どの範囲を指定し、していくのかこれは今後の発掘調査ということも、踏まえてからの話になるのかというふうに思う。これを見ていく中で問題も感じておりました、実はその当初のT24というところは、現在包蔵地の範囲外になってしまっているのでこれは早急に是正したい。

・さらに説明の中で、名神高速道路の東側というのもなかなか煩雑なので、東側地区・中央地区・西側地区と分けて便宜的に考えたらどうかというふうに思っている。

委員) 東側の地区は、この図面でいくと、高速よりも東側、拡幅前のものか。今東側地区の黄色と中央地区の東のラインは現在の高速の裾部か。

→事務局) 側道があるので、裾ではなくて側道の線になる。

委員) 先ほどその以前の調査で重要性が確認できたので盛り土として保護したという、部分は、どこになるか。行政的に見た場合に、保護のために盛ったならば持ったところは保護のために盛ったので責任をもって何とかしましょうと言わないといけないと思う。その意味で、盛ったところとそうではないところのデータは明確に把握しておいたほうがいい。

委員長) 今後の進め方についてご説明をいただきましたが、県の方は何か今の進め方について補足するところがありますか。

→県) 今のところ、特にありません。

委員長) それでは進めていく作業の中で、必要な発掘調査を入れるっていうのが入ったのは、前回の議論を踏まえていただいたものと思う。調査の進め方、或いは、遺構全体の再評価を含めてご意見いただきたい。

委員) 東側地区の整理作業は、終わっているのか。

→事務局) 半分は報告書が出ているものなので、終わっているものもあるが、報告書が出てないものについても一度ちょっと引っ張り出しする作業を、今年度やっしまわれないといけない。

委員) 令和7年度に予定されている岡遺跡中心部分の調査成果の再整理は、具体的にはそれは、遺構図面の確認とか、遺物の整理ですか。史跡指定を目指すべくなら再発掘不可欠であるが、それを1年で終えて、翌年度に、報告書完成させるスケジュールであるが、発掘調査したことによって、再検討がより必要になってくることは当然出てくると思う。それを踏まえた上で報告書目指まめ直すのは、結構かなりの労力作業になるので、このスケジュールで本当にできるのか。報告書が完成するところに持っていけるのか、ちょっと厳しいというふうなイメージもある。

→事務局) 発掘調査の整理をした上で、全体も含めていくので、なかなか難しいところがあると思う。この辺りについては発掘調査をどのように進めていくかも含めて、県や文化庁と詰めていって、スケジュールも、再検討すべきところはしていけないといけない。

委員長) 県を通じて、文化庁と打ち合わせをしてください。

委員) 遺跡範囲を考えるとというのは公有地か。栗東では包蔵地を広げるのに地域の承諾をえている

か。

→事務局) 個人の土地。範囲の変更には、特に承諾はとっていない。

委員) 最近承諾とるところもあり、もめることもあるので、スムーズに拡大できるよう進めていただきたい。

委員) 再発掘は正殿、門の取り付け、田んぼに入りますし、一番、南長舎の東の、ほとんどは入るか。

→事務局) 複数の田にまたがることになる。

委員) 正殿と門横の長舎の確認なら一枚の田んぼでもある程度情報が取れるのでは。SB39 ももう一度確認したい。全部掘る必要はないが。これを掘れば、報告書ができるだろう。

委員) 西側の長舎はどうか。

委員長) 文化庁調査官と相談し、決定的にどこが必要か。指定するのにどこが必要か押さえておくのが必要。指定にはこれで十分ということであれば、次の段階には、本当に詳細なところを、指定後に整備前提として調査する。ただいまのところは史跡指定してもらう段階で、きっちり遺跡の意味を説明するために必要なところを追加で、確認していく。そのためにどこが必要かということである。さらに草津市のデータなども含めて、評価する。栗太郡全体の、古代を明らかにしてやろうじゃないかという心意気を示していただければと思う。それでは全体の進行を、事務局にお返しします。

課長) ありがとうございます。

次回につきましては、先ほど説明させていただいたスケジュールの方に書いていますが、次年度、8月ごろ、開催を考えております。内容といたしましては、岡遺跡中心地区の成果の確認と今後の調査方針の検討と考えています。また事前に、日程を調整させていただくので、その際にはよろしく願います。

本日は長時間にわたり、このたび、ご審議いただきましてありがとうございました。

閉会にあたりまして、副委員長、一言願います。

副委員長) いろいろと注文をつけましたけども、丁寧にご対応いただき、周辺の遺跡も含めた整理をしていただきました。感謝したいと思います。いろいろ検討を重ねるといろいろ問題点とかもう絞られてくるわけです。一歩進んだということは、明るい材料だと思いますが、まだ史跡指定を目指す上では、片付けなければいけないものたくさんあるということをもたご理解いただければと思います。これを1つ1つ、評価して行って、史跡指定を目指すことができるといふふうに考えております。

今日は、文化庁調査官、箱崎委員は欠席でしたが、またその方々の意見を伺いながら進めていきたいと思えます。県の園田さんもありがとうございました。

課長) それではこれもちまして、第2回岡遺跡調査委員会を、終了させていただきます。

本日はどうもありがとうございました。